

考える道德への転換に向けたワーキンググループにおける検討事項

1. 道德教育及び道德科を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・ 三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）
 - ・ 小学校、中学校、高等学校における道德教育及び道德科で育成すべき資質・能力の系統性について
 - ・ 道德教育及び道德科において育成すべき資質・能力と各教科等において育成すべき資質・能力との関係性について
2. 考え、議論する道德への質的転換及びアクティブ・ラーニングの三つの視点（※）を踏まえた資質・能力の育成のために重視すべき、道德科の指導及び評価の改善・充実のための工夫について
3. 小学校、中学校の学習指導要領の改訂（平成27年3月）や、高等学校公民科等における内容の充実・改善を視野に入れた、高等学校における道德教育の在り方について
4. 「社会に開かれた教育課程」を実現していく上で、カリキュラム・マネジメントの視点から道德教育及び道德科の意義や役割について
5. 必要な支援（特別支援教育の観点を含む）や条件整備等について

※アクティブ・ラーニングの三つの視点（企画特別部会「論点整理」18ページ参照）

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

※カリキュラム・マネジメントの三つの側面（企画特別部会「論点整理」22ページ参照）

- ①各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- ②教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。
- ③教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

生活・総合的な学習の時間ワーキンググループにおける取りまとめの概要（案）

＜生活科＞

1. 現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた教科等目標の在り方

（１）現行学習指導要領の成果と課題

- 生活科は、児童の生活圏を学習の対象や場とし、それらと直接関わる活動や体験を重視し、具体的な活動や体験の中で様々な気づきを得て、自立への基礎を養うことをねらいにしてきた。平成20年改訂では、活動や体験を一層重視するとともに、気づきの質を高めること、幼児教育との連携を図ることなどについて充実を図った。
- 各小学校においては、身近な人々、社会及び自然等と直接関わることや気付いたこと・楽しかったことなどを表現する活動を大切にする学習活動が行われており、言葉と体験を重視した改訂の趣旨が概ね反映されているものと考えられる。
- 一方で、以下のような点については、さらなる充実を図ることが期待される。
 - ① 活動や体験を行うことで低学年らしい思考や認識を確かに育成し、次の活動へつなげる学習活動を重視すること。「活動あって学びなし」との批判があるように、具体的な活動を通して、どのような思考力等が発揮されるか十分に検討する必要がある。
 - ② 幼児教育において育成された資質・能力を存分に発揮し、各教科等で期待される資質・能力を育成する低学年教育としてなめらかに連続、発展させること。幼児期に育成する資質・能力と小学校低学年で育成する資質・能力とのつながりを明確にし、ここでの生活科の役割を考える必要がある。
 - ③ 幼児教育との連携や接続を意識したスタートカリキュラムが、生活科固有の課題としてではなく、教育課程全体を視野に入れた取り組みとすること。スタートカリキュラムの具体的な姿を明らかにするとともに、国語、音楽、図画工作などの他教科等との関連についてもカリキュラム・マネジメントの視点から検討し、学校全体で取り組むスタートカリキュラムとする必要がある。
 - ④ 社会科や理科、総合的な学習の時間をはじめとする中学年の各教科等への接続が明確ではないこと。単に中学年の学習内容の前倒しにならないよう留意しつつ、育成する資質・能力や見方・考え方のつながりを検討することが必要である。

（２）課題を踏まえた教科等目標の在り方

（生活科の目標のイメージ）

- 生活科において、対象に直接関わる具体的な活動や体験を通して育成すべき資質・能力を、資質・能力の三つの柱や生活科の特質を踏まえつつ、幼児教育において育みたい資質・能力とのつながりや、小学校低学年における他教科及び中学年以降の理科、社会、総合的な学習の時間を含めた各教科等における学習との関係性も踏まえた上で整理すると、概ね以下のように考えることができる。（詳細は別添1を参照）

- ・知識や技能の基礎（生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何がわかったり、何ができるようになるのか）としては、具体的な活動や体験を通して獲得する自分自身、社会事象、自然事象に関する個別的な気付きや関係的な気付き、具体的な活動や体験を通して身に付ける習慣や技能などが考えられる。
 - ・思考力・判断力・表現力等の基礎（生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなどを使って、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか）として、身体を通して関わり、対象に直接働きかける力や、比較したり、分類したり、関連付けたり、視点を変えたりして対象を捉える力などが考えられる。
 - ・学びに向かう力、人間性等（どのような心情、意欲、態度などを育み、よりよい生活を営むか）としては、身近な人々や地域に関わり、集団や社会の一員として適切に行動しようとする態度、身近な自然に関わり、自然を大切にしたり、遊びや生活を豊かにしたりしようとする態度、自分のよさや可能性を生かして、意欲と自信を持って学んだり生活しようとする態度などが考えられる。
- こうした資質・能力を育むために、生活科の目標としては、具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することとする。（別添2を参照）

（教育課程全体における生活科の役割とカリキュラム・マネジメント）

- 生活科を中心としたスタートカリキュラムの工夫により、小学校に入学した児童が安心して自信を持って成長し自立への基礎の形成につながることを期待される。体験的・総合的な学びから徐々に意図的・系統的な学びへと移行していくことを促しながら、その中で学校や家庭、地域での生活に必要な技能等も学んでいく。その過程においては、合科的・関連的な指導を行ったり、児童の生活の流れを大切にしたりした指導を行ったりして、幼児期の終わりまでに育った姿が発揮できるような教育課程の編成、実施上の工夫を行うことが考えられる。小学校内における組織的な取組はもとより、校区内の幼稚園、保育所等と連携し、子供の育ちの現状、育成したい資質・能力等についてのイメージを共有し、ともに考えていくことが必要である。
- 中学年は、生活科の学習が終わり理科や社会科の学習が始まるなど、具体的な活動や体験を通じて低学年で身に付けたことを、より各教科の特性に応じた学びにつなげていく時期である。指導事項も次第に抽象的な内容に近づいていく段階であり、そうした学習に円滑に移行できるような指導上の配慮が課題となる。生活科においては、低学年の未分化で一体的な学びの特性を生かし、幼児期に育成された資質・能力を発揮するとともに、学びを自覚し自ら学習に向かうこと、学級の友達と学び合うこと、体験と言葉を使って学ぶことなどを意識していくことが大切になる。
- また、生活科の体験を通した一体的な学びは、総合的な学習の時間における各教科等の見方・考え方を活かした学習につながっていく。幼児期、小学校低学年、中学年だけでなく、さらにその先につながっている生活科であるということを改めて示していくことが必要である。

（3）見方・考え方について

- 生活科では、具体的な活動や体験を通して、児童の生活圏に存在する身近な人々、社会及び自然を学習の対象として扱う。その際、対象を自分との関わりで捉えるとともに、人々、社会、自然を一体として捉えることが特徴である。
- 具体的な活動や体験を通して捉えた対象については、比較したり、分類したり、関連付けたりなどして解釈し把握するとともに、試行したり、予測したり、工夫したりなどして新たな活動や行動を創り出していくことを通して、自分自身や自分の生活について考え、そこに新たな気づきを生み出すことを期待している。こうして児童はそれぞれの対象のよさや特徴、自分との関係や、対象同士の関わりに気付いていく。
- このように、「身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、比較、分類、関連付け、試行、予測、工夫することなどを通して、自分自身や自分の生活について考えること」は、生活科の特質に応じて育まれる見方・考え方であると言える。

2. 具体的な改善事項

(1) 教育課程の構造化

①資質・能力を育成する学習過程の在り方

- 生活科における資質・能力を育む学習過程は、やってみたい、してみたいと自分の思いや願いを持ち、具体的な活動や体験を行い、直接対象と関わる中で感じたり考えたりしたことを表現し、行為していくプロセスと考えることができる(別添3参照)。一人一人の思いや願いを実現していく一連の学習活動を行うことにより、児童の自発性が発揮され、一人一人の児童が能動的に活動するようになること、体験活動と表現活動とが繰り返されることで児童の学びの質を高めていくことが重要である。
- 具体的な活動や体験を通して、比較したり、分類したり、関連付けたりなどして解釈し把握するとともに、試行したり、予測したり、工夫したりなどして新たな活動や行動を創り出すことを通して、自分自身や自分の生活について考え、個別的な気づきが関係的な気づきへと質的に高まるなど、新たな気づきを生み出すことが期待される。
- 熱中し没頭したこと、発見や成功したときの喜びなどは表現への意欲となり、他者に伝えたり、交流したり、振り返って捉え直したりして表現する活動を行うことにつながる小学校に入学したばかりの時期においては、伝え合い表現する学習活動を行うことが学びの振り返りになる。活動や体験したことを言葉などによって振り返ることで、無自覚な気づきが自覚的になったり、一つ一つの気づきが関連付いたりするという意義を持つ。表現することを通じて振り返るという学習を重視する必要がある。

②指導内容の示し方の構造

- 生活科では、内容構成の基本的な視点として、「自分と人や社会とのかかわり」「自分と自然とのかかわり」「自分自身」の3つを示しつつ、9つの内容項目と11の視点を示すとともに、それを育む学習活動が実現するよう15の学習対象を示してきた(別添4)。こうした生活科の内容について、育成すべき資質・能力の3つの柱を踏まえつつ、生活科の三つの基本的な視点を踏まえて、その構成を見直す必要がある。

- 具体的には、各内容項目について、学習対象を基に内容を構成するのではなく、①伸ばしたい思考力・判断力・表現力等が発揮され、認識を広げ、期待する態度を育成していくという点を重視して整理し、②そうした資質・能力を育成するためにふさわしく、児童の身の回りにある学習対象を、児童の実態や学習環境の変化、社会的要請等を踏まえて示すことで、内容を整理することが適当であると考えられる。
- 特に、思考力等については、これまでの目標の中で必ずしも明確に示されていないことから、できるだけ具体的に示すようにすること、認識を広げることについては、個別の気づきを関係的な気づきとして質が高まるようにすること、11の視点で示してきた児童の姿（態度）については、幼児期の終わりまでに育てたい幼児の姿との関連や、中学年以降の各教科等における学習との関連を考慮しながら見直すよう検討する。
- 目標や内容の示し方は、現行の2年間を通した設定を前提としつつ、第1学年、第2学年の発達の違い、経験の違いなどを考慮した示し方を工夫することが考えられる。

（2）教育内容の改善・充実

①教育内容の見直し

- 生活科においては、身近な幼児や高齢者、障害のある児童生徒などの多様な人々と触れ合うことを大切にすることとしてきた。多様性を尊重する社会づくりという視点から、この視点を今後さらに重視していく必要がある。
- 健康で安全な生活を営むことについての内容は、生活科の指導の全般にわたっている。教育課程全体で防災を含む安全教育を通じて育成すべき資質・能力を明確化し、その育成に必要な各教科等における指導内容を系統的に示す中で、生活科の教育内容について健康・安全の視点からの充実を図るよう検討する。

（3）学習・指導の改善充実や教育環境の充実等

①主体的・対話的で深い学びの実現

- アクティブ・ラーニングの視点による生活科の授業改善は、これまでと同様に、児童の思いや願いを実現する体験活動を充実させるとともに、表現活動を工夫し、体験活動と表現活動とが豊かに行きつ戻りつする相互作用を意識することが考えられる。

（i）「深い学び」の視点

- ・生活科では、思いや願いを実現していく過程で、一人一人の子供が自分との関わりで対象を捉えていくことが生活科の特質であると言える。
- ・生活科の特質を踏まえた見方・考え方を生かした学習活動が充実することで、気付いたことを基に考え、新たな気づきを生み出し関係的な気づきを獲得するなどの「深い学び」を実現することが求められる。低学年らしい瑞々しい感性により感じ取られたことを、自分自身の実感の伴った言葉にして表したり、様々な事象と関連付けて捉えようとしたりすることを助けるような教師の関わりが求められる。

（ii）「対話的な学び」の視点

- ・生活科では、身の回りの様々な人々と関わりながら活動に取り組むことや、伝え合ったり交流したりすることを大切にしたい。伝え合い交流する中で、一人一人の発見が共有され、そのことをきっかけとして新たな気づきが生まれたり、関係が明らかになったりすることが考えられる。他者との協働や伝え合い交流する活動は、一人一人の子供の学びを質的に高めることにもつながる。
- ・また、双方性のある活動が行われ、対象と直接関わり、対象とのやりとりをする中で、感じ、考え、気付くなどして「対話的な学び」が豊かに展開されることが求められる。

(iii) 「主体的な学び」の視点

- ・生活科では、子供の生活圏である学校、家庭、地域を学習の対象や場とし、対象と直接関わる活動を行うことで、興味や関心を喚起し、自発的な取組を促してきた。こうした点に加えて、表現を行い伝え合う活動の充実を図ることが必要である。
- ・小学校低学年は、自らの学びを直接的に振り返ることは難しく、相手意識や目的意識に支えられた表現活動を行う中で、自らの学習活動を振り返る。振り返ることで自分自身の成長や変容について考え、自分自身についてのイメージを深め、自分のよさや可能性に気付いていく。自分自身への気づきや、自分自身の成長に気付くことが、自分はさらに成長していけるという期待や意欲を高めることにつながる。
- ・学習活動の成果や過程を表現し、振り返ることで得られた手応えや自信は、自らの学びを新たな活動に生かし挑戦していこうとする子供の姿を生み出す。こうしたサイクルが「学びに向かう力」を育成するものとして期待することができる。

②教材や教育環境の充実

- 地域は、児童にとって生活の場であり学習の場である。地域の文化的・社会的な素材や活動の場などを見出す観点から地域の環境を繰り返し調査し、それらの素材を教材化して最大限に生かすことが重要である。
- 飼育動物や栽培植物といった生きた教材は、児童にとって直接的な体験の機会が減っている中で大きな意義を持つものであり、引き続き充実を図ることが必要である。
- スタートカリキュラムについては、入学当初の児童の生活面の支援に関する人的なサポートも含め、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせるカリキュラム・マネジメントが重要となる。校区内の公立私立の幼稚園等との連携体制、教育委員会と首長部局の連携も望まれる。
- 児童の体験的な活動を重視した学習を実施するため、学校内外の様々な人的な協力、交流が必要となる。学校と地域の円滑な協働体制の構築、関連する施設との連携、獣医師等の専門家の協力も必要である。

資質・能力の三つの柱に沿った

生活科において育成すべき資質・能力の整理（素案）

平成28年6月17日
生活・総合的な学習の時間WG
資料2-3

	視点	学習対象	知識や技能の基礎 (生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何がわかったり、何ができるようになるのか)	思考力・判断力・表現力等の基礎 (生活の中で、気付いたこと、できるようなったことなどを使って、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか)	学びに向かう力、人間性等 (どのような心情、意欲、態度などを育み、よい生活を営むか)
生活 小学校	【自分と人や社会との かかわり】 健康で安全な生活、身近な人々との接し方、地域への愛着、公共の意識とマナー、生産と消費、情報と交流（ア～カ）	①学校の施設 ②学校で働く人 ③友達 ④通学路 ⑤家族 ⑥家庭 ⑦地域で生活したり働いている人 ⑧公共物 ⑨公共施設 ⑩地域の行事・出来事	■ 具体的な活動や体験を通して獲得する、社会事象に関する個別的な気付き ■ 具体的な活動や体験を通して形成する、社会事象に関する関係的な気付き	■ 身体を通して関わり、対象に直接働きかける力 ■ 比較したり、分類したり、関連付けたり、視点を換えたりして対象を捉える力	■ 身近な人々や地域に関わり、集団や社会の一員として適切に行動しようとする態度
	【自分と自然との かかわり】 身近な自然との触れ合い、時間と季節、遊びの工夫（キ～ケ）	⑪身近な自然 ⑫身近にある物 ⑬動物 ⑭植物 ⑮自分のこと	■ 具体的な活動や体験を通して獲得する、自分自身に関する個別的な気付き ■ 具体的な活動や体験を通して形成する、自分自身に関する関係的な気付き	■ 違いに気付いたり、よさを生かしたりして他者と関わり合う ■ 試したり、見立てたり、予測したり、見通しを持ったりして創り出す力 ■ 伝えたり、交流したり、振り返ったりして表現する力	■ 身近な自然と関わり、自然を大切にしたり、遊びや生活を豊かにしたりしようとする態度
	【自分自身】 成長への喜び、基本的な生活習慣や生活技能（コ、サ）		■ 具体的な活動や体験を通して獲得する、自分自身に関する個別的な気付き ■ 具体的な活動や体験を通して形成する、自分自身に関する関係的な気付き		■ 自分のよさや可能性を生かして、意欲と自信をもって生活しようとする態度

学 習 上 の 自 立
精 神 的 な 自 立

別 添 1

生活科のイメージ (たたき台)

平成 28 年 6 月 17 日
生活・総合的な学習の時間WG
資料 2-2

(社会、理科の見方や考え方については、社会・地理歴史・公民ワーキンググループ、理科ワーキンググループでそれぞれ検討中)

小学校 低学年	小学校 中学年	生活科	国語	算数	音楽	図画工作	体育	道徳	特別活動
幼児教育	遊びや生活の中で、 幼児期の特性に応じた 「見方・考え方」や 資質・能力を育む学び	教科等の特質に応じた 「見方・考え方」や 資質・能力を育むとともに、 教科横断的にそれらを 総合・統合していく学び	生活科を中心としたスタートカリキュラムの中で、合科的・関連的な指導も含め、子供の生活の流れの中で、幼児期の終わりにまで育った姿が発揮できるような工夫を行いながら、短時間学習なども含めた工夫を行うことにより、幼児期に総合的に育まれた「見方・考え方」や資質・能力を、徐々に各教科等の特質に応じた学びにつなげていく時期	健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重 数量・図形、文字等への関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現	健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重 数量・図形、文字等への関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現	健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重 数量・図形、文字等への関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現	健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重 数量・図形、文字等への関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現	健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重 数量・図形、文字等への関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現	健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重 数量・図形、文字等への関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現
幼児教育	遊びや生活の中で、 幼児期の特性に応じた 「見方・考え方」や 資質・能力を育む学び	教科等の特質に応じた 「見方・考え方」や 資質・能力を育むとともに、 教科横断的にそれらを 総合・統合していく学び	生活科を中心としたスタートカリキュラムの中で、合科的・関連的な指導も含め、子供の生活の流れの中で、幼児期の終わりにまで育った姿が発揮できるような工夫を行いながら、短時間学習なども含めた工夫を行うことにより、幼児期に総合的に育まれた「見方・考え方」や資質・能力を、徐々に各教科等の特質に応じた学びにつなげていく時期	健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重 数量・図形、文字等への関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現	健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重 数量・図形、文字等への関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現	健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重 数量・図形、文字等への関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現	健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重 数量・図形、文字等への関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現	健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重 数量・図形、文字等への関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現	健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重 数量・図形、文字等への関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現

別添 2

幼児期の終わりに育ってほしい姿

※各教科等の「見方・考え方」を踏まえて、関係性を示したものである。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目の濃淡は、学校教育との関連が分かるように示したものであり、基本的にはすべての教科に関わっているが、濃い部分は特に意識的につながり考えていくことが求められるもの。幼児教育において小学校教育を前倒しで行うことを意図したものではない。

<未就園段階： 家庭や地域での生活>

生活科の学びのプロセスと育成すべき資質・能力の関係(案)

平成28年6月17日
生活・総合的な学習の時間WG
資料2-4

生活科の特質に応じて育まれる見方・考え方(イメージ・案)

身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、
比較、分類、関連づけ、試行、予測、工夫することを通して、自分自身や自分の生活について考えること

思いや願いをもつ

表現する・行為する

活動や体験をする

感じる・考える

思考力・判断力・表現力等

- 対象に関心を持つ
- 身体全体で対象と関わる
- 自ら対象に働きかける

- 比較したり、分類したり、関連付けたり、視点を換えたりして対象を捉える
- 違いに気付いたり、よさを生かしたりして他者と関わり合う
- 試したり、見立てたり、予測したり、見通しを持ったりして創り出す

- 伝えたり、交流したり、振り返ったりして表現する
- 生活に生かしたり、生活を豊かにしたりする

学びに向かう力・人間性等

- | | | | | | | |
|-----|----------|--------|--------|----|----|---------------|
| 探究心 | 他者尊重 | 地域への愛着 | 適切な関わり | 公共 | 安全 | (主に人や社会との関わり) |
| 好奇心 | 自然との触れ合い | 感性 | 生命尊重 | 創造 | | (主に自然との関わり) |
| 意欲 | 自信 | 成長 | 自分らしさ | 感謝 | | (主に自分自身) |

個別の知識・技能

人、社会、自然に対する個別的な気付き
(例: 学校生活を支えている人々がいること、季節によって生活の様子が変わること など)

人、社会・自然に対する関係的な気付き
(例: 空間の中でつながり関わっていること、きまりや一定の変化があること など)

自分自身への気付き
(例: 自分自身が成長したこと、役回りが増えたこと など)

具体的な活動や体験を通して身に付ける習慣や技能(例: 生活のリズム・病気の予防・ルール・マナー、道具を使って物を作る・動植物の世話ができる など)

別添 3

資質・能力の3本柱：知識・技能の基礎
(生活の中で、豊かな体験を通じて、
何を感じたり、何に気付いたり、何が
わかったり、何ができるようになるのか)

思考力・判断力・表現力等の基礎
(生活の中で、気付いたこと、できるよ
うになったことなどを使
って、どう考えたり、試したり、工夫
したり、表現したりするか)

学びに向かう力・人間性等
(どのような心構、意欲、態度などを育み、よりよい生活
を営むか)

生活科の3つの視点：自分と人や社会とのかわり(●)、自分と自然とのかわり(■)、自分自身(◆)

生活科の内容項目(平成20年3月告示)	
(1)	学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かり(●)、楽しく安心して遊びや生活ができる(●)ようにするとともに、 <u>通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心をもち(●)、安全な登下校ができるようにする(●)。</u>
(2)	<u>家庭生活を支えている家族のことや自分で行えることなどについて考え(●)、自分の役割を積極的に果たすとともに(◆)、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようになる(◆)。</u>
(3)	自分たちの生活は <u>地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり(●)、それらに親しみや愛着をもち(●)、人々と適切に接することや安全に生活することができるようになる(◆)。</u>
(4)	<u>公共物や公共施設を利用し(●)、身の回りにはみんなが使うものがあることやそれを支えている人々がいることなどが分か(●)、それらを大切に、安全に気を付けて正しく利用することができるようになる(●)。</u>
(5)	身近な自然を観察したり(■)、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして(●)、四季の変化や季節によって生活の様子が変わること(■)に <u>気付(■)、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする(●)。</u>
(6)	身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり(■)、その面白さや自然の不思議さに <u>気付(■)、みんなで遊びを楽しむことができるようになる(●)。</u>
(7)	<u>動物を飼ったり植物を育てたりして(■)、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち(■)、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付(■)、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようになる(■)。</u>
(8)	自分たちの生活や地域の出来事を <u>身近な人々と伝え合う活動を行い(●)、身近な人々とかかわることの楽しさが分(●・◆)、進んで交流することができるようになる(●)。</u>
(9)	自分自身の成長を振り返り、多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分(◆)、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができるようになる(◆)。

生活・総合的な学習の時間ワーキンググループにおける取りまとめの概要（案）

＜総合的な学習の時間＞

1. 現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた教科等目標の在り方

（1）現行学習指導要領の成果と課題

- 総合的な学習の時間は、学校が地域や学校、児童・生徒の実態等に応じて、横断的・総合的な学習など創意工夫を生かした教育活動を行うこととしている。
- 平成20年・21年の改訂では、総合的な学習の時間を、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習とすることと同時に、探究的な学習や協同的な学習とすることが重要であることを明示した。特に、探究的な学習を実現するため、「①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現」の探究のプロセスを明示し、学習活動を発展的に繰り返していくことを重視した。
- 成果としては、全国学力・学習状況調査の分析等において、総合的な学習の時間で探究のプロセスを意識した学習活動に取り組んでいる児童・生徒ほど各教科の正当率が高い傾向にあること、探究的な学習活動に取り組んでいる児童生徒の割合が増えていることなどが明らかになっている。また、総合的な学習の時間の役割は **PISA** における好成績につながったことのみならず、学習の姿勢の改善に大きく貢献するものとして **OECD** をはじめ国際的に高く評価されている。
- その上で、今後さらなる充実が期待されることとして、概ね以下のような課題がある。
 - ・ 一つ目は、総合的な学習の時間で育成する資質・能力についての視点である。総合的な学習の時間を通してどのような資質・能力を育成するのかということや、総合的な学習の時間と各教科との関連を明らかにすることについては学校により差がある。これまで以上に総合的な学習の時間と各教科等の相互の関わりを意識しながら、学校全体で育てたい資質・能力に対応したカリキュラム・マネジメントが行われるようにすることが求められている。
 - ・ 二つ目は、探究のプロセスに関する視点である。探究のプロセスの中でも「整理・分析」「まとめ・表現」に対する取組が十分ではないという課題がある。探究のプロセスを通じた一人一人の資質・能力の向上をより一層意識することが求められる。
 - ・ 三つ目は、高等学校における総合的な学習の時間への取組という視点である。地域の活性化につながるような事例が生まれている一方で、本来の趣旨を実現できていない学校もあり、小・中学校の取組の成果の上に高等学校にふさわしい実践が十分展開されているとは言えない状況にある。

（2）課題を踏まえた教科等目標の在り方

（総合的な学習の時間の目標）

- これまでは総合的な学習の時間において各学校において育成すべき資質・能力・態度として、「学習方法に関すること」「自分自身に関すること」「他者や社会とのか

かわりに関すること」の3つの視点が例示されていた。これら3つの視点と、論点整理において示された資質・能力の3つの柱に即して、総合的な学習の時間で育成する資質・能力について整理した。（別添1を参照）

- これらを踏まえ、総合的な学習の時間においては、探究的な（探究の）見方・考え方を働かせて、よりよく課題を解決し、自己の（在り方）生き方を考えることを通して、資質・能力を育成することを目標とする。（括弧内は高等学校）（別添2を参照）

（教育課程全体における総合的な学習の役割とカリキュラム・マネジメント）

- 総合的な学習の時間において、学習指導要領に定められた目標を踏まえて各学校が教科横断的に目標を定めることは、各学校においてカリキュラムを編成・実施するカリキュラム・マネジメントの鍵となる。各学校が定める目標についても、資質・能力の3つの柱の考え方を踏まえたものとなることが求められる。
- 教科横断的に学ぶ総合的な学習の時間において、各教科等の見方・考え方を活用することによって、見方・考え方は多様な文脈で使えるようになるなどして確かなものになり、各教科等の「深い学び」を実現することにもつながるものと期待できる。
- 学年間・学校段階間といった「縦」のつながりでも期待される役割が大きい。小学校、中学校、高校の中で、どのような学習を行い、資質・能力を養うことを積み上げていくのかという中で、総合的な学習の時間においてどのような目標、内容の学習を行うかということがひとつの軸となる。
- さらに、総合的な学習の時間は、目標や内容を各学校が定めるという点において、各学校の教育目標に直接的につながる。特に、高等学校では総合的な学習の時間がその学校のミッションを体現するものとなるべきである。

（3）見方・考え方について

- 総合的な学習の時間の特徴から求められることは、大きく整理すると、以下のよう
な点がある。
 - ・ 一つの教科等の枠に収まらない課題に取り組む学習活動をととして、各教科等で身に付けた知識や技能等を相互に関連づけ、学習や生活に生かし、それらが児童生徒の中で総合的に働くようにすること。
 - ・ 多様な他者と協働し、異なる意見や他者の考えを受け入れる中で、実社会や実生活との関わりで見出される課題を多面的・多角的に俯瞰して捉え、考えること。
 - ・ 学ぶことの意味や意義を考えたり、学ぶことを通じて達成感や自身を持ち、自分のよさや可能性に気付いたり、自分の人生や将来について考え学んだことを現在及び自己の将来につなげたりして考えるという、内省的（Reflective）な考え方をすること。特に高等学校においては自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら見方・考え方を組み合わせて統合させ、活用すること。
- これらを踏まえてまとめると、総合的な学習の時間の見方・考え方は「各教科等の特質に応じて育まれる見方・考え方を総合的（・統合的）に活用して、広範（かつ複

雑) な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会や実生活の(複雑な) 文脈や自己の(在り方) 生き方と関連付けて振り返り(内省的に) 考えること」であると言える。
(括弧内は高等学校)

2. 具体的な改善事項

(1) 教育課程の構造化

①資質・能力を育成する学習過程の在り方

- 総合的な学習の時間において、①「課題の設定」→②「情報の収集」→③「整理・分析」→④「まとめ・表現」といった探究のプロセスを通して資質・能力を育成する。こうした中で、各教科等の見方・考え方を総合的(統合的)に活用し、広範かつ複雑な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会や実生活の複雑な文脈の中で物事を考えたり、自分自身の在り方生き方と関連付けて内省的に考えたりすることが総合的な学習の時間における探究のプロセスの特徴である。(別添3を参照)
- 各教科等で育成された見方・考え方を総合的・統合的に活用することで、各教科等の見方・考え方と総合的な学習の時間の見方・考え方は相互に関連し合いながら、より確かなものとなり、実社会・実生活の中で生きて働くものとなっていく。
- この過程の順序は入れ替わったり、一体化したり、重点的に行われたり、一連の過程がより大きな過程の一部になったりもする。児童生徒にとっては試行錯誤を繰り返すことによりこうした過程を行ったり来たりすることも重要であり、時には失敗したり立ち止まって前提を疑って考えることがあってこそ探究的な学びである。

② 指導内容の示し方の構造

- 学習指導要領において総合的な学習の時間の目標を示し、各学校においてそれを踏まえて目標や内容を設定するという基本的な構成は維持すべきと考えられる。その上で、総合的な学習の時間を通じて育成すべき資質・能力や、教育課程全体における総合的な学習の時間の役割等を明確にするという観点から、総合的な学習の時間に関する学習指導要領における示し方についても構造を再整理する必要がある。
- 学習活動の例示については、総合的な学習の時間が果たすべき役割を踏まえ、学習活動の設定に関して望まれる考え方を示す。(例えば、実生活・実社会に関する現代社会や地域社会に関する課題などとする、児童生徒にとって身近に感じられ、かつ、探究的に学ぶ意義等を実感できるような課題を設定すること等)
- 「知識・技能」に関して、総合的な学習の時間の見方・考え方を働かせた学習活動を通して獲得される概念(的な知識)の方向性を例示することを検討する。
- 「思考力・判断力・表現力等」に関して、探究のプロセスを通じて働く学習方法(思考スキル)に関する資質や能力を例示することを検討する。

- 「学びに向かう力・人間性等」に関して、探究活動と自分自身、探究活動と他者や社会に関する資質・能力を例示することを検討する。特に高等学校においては、探究と自己のキャリア形成を関連付けることを明確化する。
- 全体計画及び年間指導計画の作成に当たり、育成する資質・能力を明示するとともに、児童生徒や保護者、地域・社会にも積極的に説明し共有するよう求めることが考えられる。

（２）教育内容の改善・充実

①構成の見直し

- 各学校段階における総合的な学習時間の実施状況や、現在各校種別部会で検討されている、義務教育９年間の修了時及び高等学校修了時までには育成すべき資質・能力、高大接続改革の動向等を考慮すると、高等学校においては、小中学校における総合的な学習の時間の取組の成果を活かしつつ、より探究的な活動を重視する視点から、位置づけを明確化し直すことが必要と考えられる。
- 小学校、中学校においては、各教科等の特質に応じて育まれた見方・考え方を総合的に活用しながら、自ら問いを見出し探究することのできる力を育成し、探究的な学習が自己の生き方に関わるものであることに気付くようにする。
- それを基盤とした上で、高等学校における総合的な学習の時間においては、各教科等の特質に応じて育まれる見方・考え方を総合的・統合的に活用することに加えて、自己の在り方生き方に照らし、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら見方・考え方を組み合わせて統合させ、活用しながら、自ら問いを見出し探究することのできる力を育成するようにする。
- このため、高等学校の総合的な学習の時間については、名称を「総合的な探究の時間(仮称)」などに変更することも含め位置づけを見直す。これまでの実践事例や国際バカロレアディプロマプログラムにおける「知の技能」なども参考に、各学校の取組が一層の充実を図るようにする。より探究的な学習を展開するための学ぶ教材の作成、提供も検討する。
- キャリア形成と関連付けるという点においては、専門教科における課題研究科目や検討中の「理数探究(仮)」と同様の性格を持つが、総合的な学習の時間では、特定の分野を前提とせず、実社会や実生活から自ら見出した課題を探究していくことを通して自己のキャリア形成の方向性を見出すことにつなげていく。

②教育内容の見直し

- 総合的な学習の時間においては、学習課題の例示として、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的な課題や地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題などを示している。教科横断的な課題については、総合的な学習の時間で扱うだけでなく、各教科等の学習と関連付け、全体としてどのような資質・能力を育成していくかという視点も重要である。

- 教科横断的に育成すべき資質・能力については、総則の見直しを踏まえて総合的な学習の時間に関しても必要な規定を置くことを検討する。

(持続可能な社会という視点)

- 持続可能な開発のための教育（ESD）は、次期学習指導要領改訂の全体において基盤となる理念であると言えるが、そこで求められている資質・能力（国立教育政策研究所の整理によれば、「多様性」「相互性」「有限性」「公平性」「連携性」「責任性」といった概念の理解、「批判的に考える力」「未来像を予測して計画を立てる力」「多面的・総合的に考える力」などの力）は、総合的な学習の時間で探究的に学習する中で、より確かな力としていくことになると考えられる。
- 持続可能な社会の担い手として必要とされる資質・能力を育成するには、どのようなテーマを学習課題とするかではなく、必要とされる資質・能力を育むことを意識した学習を展開することが重要である。各学校がESDの視点からの教科横断的な学習を一層充実していくに当たり、総合的な学習の時間が中心的な役割を果たしていくことが期待される。

(情報活用能力やプログラミングについて)

- 総合的な学習の時間においては、情報の集め方や調べ方、整理・分析の仕方、まとめ方や表現の仕方などの教科横断的に活用できる「学び方」を身に付け、学習の過程において情報手段の操作もできるようにすることが求められる。
- 「プログラミング的思考」など、子供達が将来どのような職業に就くとしても求められる力を育むため、小学校段階でプログラミングを体験する教育が求められている。総合的な学習の時間では、例えば、探究的な学習の中で、プログラミングを体験しながら、自分の暮らしとプログラミングとの関係を考え、そのよさに気付く学びを取り入れていくことが考えられる。
- その際、プログラミングを体験することが、総合的な学習の時間における学びの本質である探究的な学習として適切に位置づけられるようにすることとともに、児童一人一人に探究的な学びが実現し、一層充実するものとなるように十分配慮することが必要である。

(3) 学習・指導の改善充実や教育環境の充実等

①主体的対話的で深い学びの実現

(i) 「深い学び」の視点

- 探究のプロセスを一層重視し、これまで以上に学習過程の質的向上を目指すことが求められる。実社会・実生活に即した学習課題について探究的に学ぶ中で、各教科等の特質に応じて育まれる見方・考え方を総合的に活用することで、個別の知識や技能は関連付けられて概念化し、能力は実際の活用場面と結び付いて汎用的になり、多様な文脈で使えるものとなることが期待できる。

- 特に、「①課題の設定」の場面で課題を自分事としてとらえること、「③整理・分析」の場面で俯瞰して捉え内省的に考えるという探究的な見方・考え方を働かせることが重要である。

(ii) 「対話的な学び」の視点

- 多様な他者と力を合わせて問題の解決や探究活動に取り組むことには、①他者へ説明することにより知識や技能の構造化が図られること、②他者から多様な情報が収集できること ③新たな知を創造する場を構築できることといったよさがある。
- 例えば、情報を可視化し操作化する思考ツールの活用などにより、児童生徒同士で学びあうことを助けるなどの授業改善の工夫によって、思考を広げ深め、新たな知を創造する児童の姿が生まれるものと考えられる。
- 協働的に学習することはグループとして結果を出すことが目的ではなく、一人一人がどのような資質・能力を身に付けるかということが重要であることに留意する。
- また、「対話的な学び」は、学校内において他の児童生徒と活動を共にするというだけでなく、一人でじっくりと自己の中で対話すること、先人の考えなどと文献で対話すること、離れた場所をＩＣＴ機器などでつないで対話することなどを含め、様々な対話の姿や対象が考えられる。

(iii) 「主体的な学び」の視点

- 総合的な学習の時間において、探究のプロセスの中で主体的に学んでいく上では、課題設定と振り返りが重要である。課題の設定に当たっては、自分事として課題を設定し、主体的な学びを進めていくようにするため、実社会や実生活の問題を取り上げることや、学習活動の見通しを明らかにし、ゴールとそこに至るまでの道筋を描きやすくなるような学習活動の設定を行うことが必要である。
- 振り返りについては、自らの学びを意味づけたり価値づけたりして自己変容を自覚し、次の学びへと向かう「学びに向かう力」を培うために、言語によりまとめたり表現したりする学習活動を意識することが必要である。
- 振り返りは授業や単元の終末に行うものとは限らず、学習の途中において、見通したことを確かめ、必要に応じて見通しを立て直すことも考えられ、こうした振り返りを主体的に行う資質・能力を育てることも重要である。

②教材や教育環境の充実

(教材の在り方)

- 高等学校において、生徒が主体的に探究していく上で助けとなるような、全国共通で活用できる教材等を作成することを検討する。例えば課題の設定や、情報の整理・分析に関する思考のスキル、成果を適切にまとめて発表するための方法といったことを学べるものとするのが考えられる。その際、高等学校の総合的な学習の時間が、「当該教材を教えるもの」にならないよう留意する。

(必要な条件整備)

- 各学校において、校長のビジョンとリーダーシップのもと、各学校が育成しようとする子供の姿から必要な資質・能力を明らかにし、各教科をつないでカリキュラムデザインができるミドルリーダー的な教員が育つことが期待される。
- 総合的な学習の時間を担当する教員の資質・能力向上を図るため、国や都道府県等のレベルで各地域の取組状況等を協議できる機会を引き続き充実する。
- 「社会に開かれた教育課程」の視点から、学校と保護者とが育成したい子供たちの資質・能力について共有し、必要な協力を求めることも大事である。
- 地域との連携に当たっては、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の枠組みを積極的に活用することが望まれる。地域の様々な課題に即した学習課題を設定するにあたり、教育委員会と首長部局との連携も強く求められる。

資質・能力の三つの柱に沿った、小・中・高を通じて 総合的な学習の時間において育成すべき資質・能力の整理（素案）

平成28年6月17日
生活・総合的な学習の時間WG
資料3-3

国が定める目標及び各学校の教育目標に基づき各学校において設定

	知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていることとできることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)
高等学校	○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識(及び概念) ○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する技能 [○ 探究することの意義や価値の理解]	○ 探究することを通して身に付ける課題を見いだし解決する力 ・課題設定 ・情報収集 ・整理・分析 ・まとめ・表現 など	○ 主體的に探究することの経験の蓄積を信念や自信、自己肯定感につなげ、さらに高次の課題に取り組みようとする態度を育てる。 ○ 協同的（協働的）に探究することの経験の蓄積を自己有用感や社会貢献の意識へとつなげ、よりよい社会の実現に努めようとする態度を育てる。 など
中学校	○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識(及び概念) ○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する技能 [○ 探究的な学習のよさの理解]	○ 探究的な学習を通して身に付ける課題を見いだし解決する力 ・課題設定 ・情報収集 ・整理・分析 ・まとめ・表現 など	○ 主體的な探究活動の経験を自己の成長と結び付け、次の課題へ積極的に取り組みようとする態度を育てる。 ○ 協同的（協働的）な探究活動の経験を社会の形成者としての自覚へとつなげ、積極的に社会参画しようとする態度を育てる。 など
小学校	○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識(及び概念) ○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する技能 [○ 探究的な学習のよさの理解]	○ 探究的な学習を通して身に付ける課題を見いだし解決する力 ・課題設定 ・情報収集 ・整理・分析 ・まとめ・表現 など	○ 主體的な探究活動の経験を自信につなげ、次の課題へ進んで取り組みようとする態度を育てる。 ○ 協同的（協働的）な探究活動の経験を実社会・実生活への興味・関心へとつなげ、進んで地域の活動に参加しようとする態度を育てる。など

教育課程全体におけるアクティブ・ラーニングの視点での学習活動を支える

別紙 1

各教科等の特質に応じて育まれる見方・考え方を、総合的な学習の時間で総合的に活用
総合的な学習の時間において各教科等の見方・考え方を使うことで、多様な文脈で使えるようになるなど、各教科等の見方・考え方が成長し、「深い学び」が実現

(第8回WG資料を修正)

探究する能力を育むための総仕上げとしての在り方を明確化し、名称についても見直す
(例えば「総合的な探究の時間」あるいは「探究の時間」等)

【高等学校】**◆学習指導要領で示す目標（イメージ）**

探究の見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の在り方生き方を考えることを通して、次のとおり資質・能力を育成する。

- 課題（学習対象）に関する概念的知識を獲得し、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、探究の意義や価値を理解するようにする
- 実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力を育成する
- 主体的・協同的（協働的）に課題を探究し、互いのよさを生かしながら、新たな価値の創造やよりよい社会の実現に努めようとする態度を育てる

◆各学校が設定する目標：上記を踏まえて、各学校が目標を設定するとともに、その目標を踏まえた内容を定める。

【中学校】**◆学習指導要領で示す目標（イメージ）**

探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えることを通して、次のとおり資質・能力を育成する。

- 課題（学習対象）に関する概念的知識を獲得し、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解するようにする
- 実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力を育成する
- 主体的・協同的（協働的）探究的な学習に取り組み、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画する態度を育てる

◆各学校が設定する目標：上記を踏まえて、各学校が目標を設定するとともに、その目標を踏まえた内容を定める。

【小学校】**◆学習指導要領で示す目標（イメージ）**

探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えることを通して、次のとおり資質・能力を育成する。

- 課題（学習対象）に関する概念的知識を獲得し、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解するようにする
- 実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力を育成する
- 主体的・協同的（協働的）探究的な学習に取り組み、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画する態度を育てる

◆各学校が設定する目標：上記を踏まえて、各学校が目標を設定するとともに、その目標を踏まえた内容を定める。

探究のプロセスと育成すべき資質・能力の関係（案）

平成 28 年 6 月 17 日
生活・総合的な学習の時間WG
資料 3-4

■ 小学校

	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
学習方法	■ 問題状況の中から課題を発見し設定する ■ 解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てる	■ 手段を選択し、情報を収集する ■ 必要な情報を収集し分析する	■ 問題状況における事実や関係を把握し理解する ■ 多様な情報の中にある特徴を見付ける ■ 課題解決を目指して、事象を比較したり、関連付けたりして考える	■ 相手や目的、意図に応じて分かちやすいまとめ、表現する ■ 学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとする
探究活動と自分自身	○ 課題の解決に向けて探究活動に主体的に取り組もうとする（主体性）			
	○ 自分らしさを発揮して探究活動に向き合い、課題解決に向けて取り組もうとする（自己理解）			
	○ 探究的な課題解決の経験を自信につなげ、次の課題へ進んで取り組もうとする（内面化）			
探究活動と他者や社会	○ 課題の解決に向けて探究活動に協同的に取り組もうとする（協同性（協働性））			
	○ 異なる意見や他者の考えを受け入れながら探究活動に向き合い、目標の達成に向けて取り組もうとする（他者理解）			
	○ 探究的な課題解決が実社会・実生活への興味・関心へとつながり、進んで地域の活動に参加しようとする（社会参画、社会貢献）			

	別添 3					
知識	実社会の課題に関する事実的知識(※)の獲得		概念的知識(※)の形成			
技能	課題設定のスキル		情報収集のスキル		思考のスキル	表現のスキル
	(比較・分類・関連付け)					
	■ 知識は、学校種が上がるほど高度化・構造化する ■ 技能は、思考スキルを中核とし、学校種が上がるほど自覚化・脱文脈化する					

別添 3

■中学校

	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
学習方法	■複雑な問題状況の中から適切に課題を設定する ■仮説を立て、検証方法を考え、計画を立案する	■目的に応じて手段を選択し、情報を収集する ■必要な情報を収集し、多角的に分析する	■複雑な問題状況における事実や関係を把握し、自分の考えを持つ ■視点を定めて多様な情報を分析する ■課題解決を目指して、事象を比較したり、因果関係を推測したりして考える	■相手や目的、意図に応じて論理的に表現する ■学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かす
探究活動と自身	○課題に誠実に向き合い、課題の解決に向けて探究活動に主体的に取り組もうとする（主体性） ○自分のよさを生かしながら探究活動に向き合い、責任をもって計画的に取り組もうする（自己理解） ○探究的な課題解決の経験を自己の成長と結び付けて考えてことができ、次の課題へ積極的に取り組もうとする（内面化）			
探究活動と他者や社会	○互いの特徴を生かすなど、課題の解決に向けて探究活動に協同的に取り組もうとする（協同性（協働性）） ○異なる意見や他者の考えを受け入れながら探究活動に向き合い、互いを理解しようとする（他者理解） ○探究的な課題解決が社会の形成者としての自覚へとなつながら、積極的に社会活動へ参加しようとする（社会参画、社会貢献）			

知識	実社会の課題に関する事実的知識 ^(※) の獲得	概念的知識 ^(※) の形成
技能	課題設定のスキル 情報収集のスキル 思考のスキル (比較・分類・関連付け・多面的)	表現のスキル

※総合的な学習の時間の時間で扱う内容は各学校において定めることとなっているため、知識の具体は各学校において異なる。

■知識は、学校種が上がるほど高度化・構造化する ■技能は、思考スキルを中核とし、学校種が上がるほど自覚化・脱文脈化する

■高等学校

	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
学習方法	■複雑な社会状況を踏まえて課題を設定する ■仮説を立て、それに適合した検証方法を明示した計画を立案する	■目的に応じて臨機応変に適切な手段を選択し、情報を収集する ■必要な情報を広い範囲から迅速かつ効果的に収集し、多角的、実地的に分析する	■複雑な問題状況における事実や関係を構造的に把握し、自分の考えを形成する ■視点を定めて多様な情報から帰納的、演えき的に考察する ■事実や事実間の関係を比較したり、複数の因果関係を推理したりして考える	■相手や目的、意図に応じて手際よく論理的に表現する ■学習の仕方や進め方を内省し、現在及び将来の学習や生活に生かす
探究活動と自分自身	○課題に真摯に向き合い、より適切な課題の解決に向けて探究活動に主体的に取り組もうとする（主体性）			
	○自分の特徴を生かし当事者意識と責任感をもって探究活動に向き合い、計画的に着実に取り組もうとする（自己理解）			
	○探究的な課題解決の経験の蓄積を課題解決への信念や自信、自己肯定へとつなげ、更に高次の課題に取り組もうとする（内面化）			
探究活動と他者や社会	○互いを認め特徴を生かし合うなど、課題の解決に向けた探究活動に協同的に取り組もうとする（協同性（協働性））			
	○異なる意見や他者の考えを受け入れながら探究活動に向き合い、互いを尊重し理解しようとする（他者理解）			
	○探究的な課題解決の経験の蓄積が、自己有用感や実社会・実生活に貢献しようとする態度へとつながり、社会の形成者としてよりよい社会の実現に努めようとする（社会参画、社会貢献）			

知識

技能

実社会の課題に関する事実的知識^(※)の獲得

概念的知識^(※)の形成

学ぶことの意義や価値の理解

※総合的な学習の時間の時間で扱う内容は各学校において定めていることなどがあるため、知識の具体は各学校において異なる。

課題設定のスキル

情報収集のスキル

思考のスキル

表現のスキル

(比較・分類・関連付け・多面的・構造的)

■知識は、学校種が上がるほど高度化・構造化する

■技能は、思考スキルを中核とし、学校種が上がるほど自覚化・脱文脈化する

3

特別活動ワーキンググループにおける取りまとめの概要（案）

1. 現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた教科等目標の在り方

（１）現行学習指導要領の成果と課題

- 特別活動は、学級活動・ホームルーム活動、児童会活動・生徒会活動、クラブ活動、学校行事から構成され、それぞれ構成の異なる集団での活動を通して、児童生徒が学校生活を送る上での基盤となる力や社会で生きて働く力を育む活動として機能してきた。
- 特別活動は（望ましい）集団活動を通じて行われるという特質があり、各活動及び学校行事を通じて、協働性や異質なものを認め合う土壌を育むなど、生活集団、学習集団として機能するための基盤が創られている。さらに、特別活動のもつ生徒指導の機能、ガイダンスの機能等が、それらを強固なものにすることに寄与している。
- このことは、全国学力・学習状況調査の質問紙調査において、「学級会などの時間に友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めていると思う」と肯定的に回答している児童生徒の方が、全ての教科で平均正答率が高い傾向にあることから見て取れる。
- 特別活動における集団活動は、集団への所属感、連帯感を育み、それが学級文化、学校文化の醸成へとつながり、各学校の特色ある教育活動の展開を可能としており、このような特別活動は、我が国の教育課程の特徴として、海外からも高い評価を受けている。
- 一方で、更なる充実が期待される今後の課題は、概ね以下のような点である。

①育成すべき資質・能力の視点

特別活動においては、「なすことによって学ぶ」ということが重視され、各学校で特色ある取組が進められている一方で、各活動において身に付けるべき資質・能力は何なのか、どのような学習過程を経ることにより資質・能力の向上につながるのかということが必ずしも意識されないまま指導が行われてきた実態も見られる。特別活動の時間において育成する資質・能力だけでなく、特別活動が各教科等の学びの基盤となるという面もあり、教育課程全体における特別活動の役割、機能も明らかにする必要がある。

②学習指導要領における内容の示し方の視点

これまで、各活動の内容や指導のプロセスについて構造的な整理が必ずしもなされておらず、各活動等の関係性や意義、役割の整理が十分でないまま実践が行われてきたという実態も見られる。特に中学校・高等学校の学級活動・ホームルーム活動の内容項目が多いことが、学級・ホームルームの課題を自分たちで見出して解決に向けて話合う活動が深まらない要因の一つとなっていると考えられる。

③複雑で変化の激しい社会の中で求められる能力を育成するという視点

社会参画の意識の低さが課題となる中で、自治的能力を育むことがこれまで以上に求められている。また、キャリア教育を学校教育全体で進めていく中で特別活動が果たす役割への期待も大きい。このほか、防災を含む安全教育、体験活動など、社会の変化や要請も視野に入れ、各教科等の学習と関連付けながら、特別活動において育成すべき資質・能力についてさらに検討する。

（２）課題を踏まえた教科等目標の在り方

- 本WGでは、特別活動において育成すべき資質・能力について、幼児教育や他教科等との関係性も意識しつつ、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」という３つの視点を手掛かりとしながら、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力や人間性等」の３つの柱に沿って別添１のとおり整理を行った。これら育成すべき資質・能力を踏まえ、小・中・高等学校の系統性を考慮した特別活動の目標のイメージは、別添２のとおりである。
- これまでの特別活動の目標では、特別活動の特質を「望ましい集団活動を通して」という点においてきた。この「望ましい集団活動を通して」とは、一人一人の児童生徒が互いのよさや可能性を認め、生かし、伸ばし合うことができるような実践的な方法で集団活動を行ったり、望ましい集団を育成しながら個々の児童生徒に育てたい資質や能力を育成したりするという特別活動の方法原理を示したものであるが、「望ましい」ということが、学習のプロセスというよりは目標を示しているような印象や、あらかじめ望ましい集団があることが学習の前提となっているかのような誤解を与える可能性があるため、今後その要素を具体的に目標の中に示すこととして整理することが考えられる。
- 特別活動は、教育課程全体の中で、①特別活動の各活動において資質・能力を育む役割だけでなく、②学級活動を通じて学級経営の充実が図られ、学びに向かう学習集団を形成することや、各教科等において育まれる見方・考え方を特別活動の中で実践的な文脈で用いることによって、各教科におけるより主体的・対話的で深い学びの実現に寄与する役割や ③教育課程外も含め学級・学校文化の形成等を通じて学校全体の目標の実現につなげていく役割を担っており、これらをバランスよく果たすことが求められる。

（３）見方・考え方について

- 特別活動とは、様々な構成の集団から学校生活を捉え、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。その活動の範囲は学年・学校段階が上がるにつれて広がりを持っていき、社会に出た後の様々な集団や人間関係の中でその資質・能力は生かされていくことになる。
- また、実生活の課題を解決するために、互いのよさや可能性を発揮できるような様々な集団活動を通して、各教科等における学びを実際の場面で総合的に活用して実践する時間であるとともに、特別活動の学びが各教科等の学習を行う上での土台となるといった各教科等と往還的な関係にあるとすることができる。
- このような特別活動の特質を踏まえつつ、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の３つの視点を手掛かりとして、特別活動の「見方・考え方」は、「各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方を総合的に活用して、集団や社会の形成者という視

点から問題を見出し、人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現の視点からその問題を解決するために考えること」と整理した。(別添3 参照)

2. 具体的な改善事項

(1) 教育課程の構造化

①資質・能力を育成する学習過程の在り方

- 特別活動の特質に鑑みれば、「決めたことの実践」が重要であることはいうまでもないが、特別活動において育成すべき資質・能力は、実践も含めた全体の学習過程の中で育まれるものである。例えば、学級活動においては「問題の発見・確認」、「解決方法の話し合い」、「解決方法の決定」、「決めたことの実践」、「振り返り」といった学習過程を示している。(詳細は別添4 参照)
- 集団活動の中で、多くの生徒が役割を経験することが重要である。役割を果たす中で主体的に思考・判断・表現し、自己有用感を育むとともに、役割を決める過程自体が自治的能力や、主権者として積極的に社会参画する力を育成することになる。
- また、特別活動においては、休み時間や給食の時間、放課後等を含めた学校教育全体を見渡して、教師が意図的、計画的に指導を行うことも大変重要である。

②指導内容の示し方の構造

(学級活動の内容)

- 学級活動について、内容項目ごとに育成すべき資質・能力とそのために重視する学習過程を明確にして、特に自治的能力の育成を重視し、課題の発見を含めて児童生徒主体の話し合いを通じて行うことが改めて明確となるようにする。
- 総則において学級経営に関して明示する方向で検討がなされていることに対応し、学級活動の(1)を中心に学級経営との関連を図ることを示すことが必要である。
- また、小・中・高等学校を通じて育成すべき資質・能力の観点から、以下のように系統性が明確になるよう構造を整理する。
 - ・ 小学校の学級活動の内容に(3)を設け、キャリア教育の視点からの小・中・高等学校のつながりが明確になるよう整理すること
 - ・ 中学校、高等学校において、与えられた課題ではなく学級・ホームルームの課題を自分たちで見出して解決に向けて話し合う活動として(1)の内容を重視する視点から、(2)(3)の内容を整理すること
- これらを踏まえ、小・中・高の学級活動・ホームルーム活動の構成は、以下のような構成に揃えることが考えられる。(別添5 参照)
 - (1) 学級や学校における集団生活の創造、参画(仮)

主として自発的・自治的な集団活動の形成や運営に関わる内容であり、集団としての議題の選定や話し合い、合意形成（集団決定）とそれに基づく実践を大事にする活動。日々の学級経営との関連を図る。

（２）一人一人の適応や成長及び健康安全な生活の実現（仮）

主として個人が現在直面する生活における適応や成長、自律等に関わる内容であり、一人一人の理解や自覚、意思決定（自己決定）とそれに基づく実践等を大事にする活動。関係する教科、個別の生徒指導等との関連を図る。

（３）一人一人のキャリア形成と実現（仮）

主として将来に向けた自己の実現に関わる内容であり、一人一人の主体的な意思決定を大事にする活動。教育課程全体を通して行うキャリア教育との関連を図るとともに、個に応じた学習の指導・援助や、個別の進路相談等との関連を図る。

- 上記のように、構成の大枠は小中高の系統が明らかになるよう整理しつつ、それぞれの具体的な内容や示し方は、総則や各教科等の学習内容との関係も踏まえながら、各学校段階にふさわしいものとする必要がある。

（児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事）

- 児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事においても、それぞれの活動を通して、育成すべき資質・能力を明確化する方向で目標及び内容の示し方を改める必要がある。各学校において、各活動を通じて育成する資質・能力と、その実現に必要な活動内容を十分考慮し、必要かつ適切な時間数を確保することが必要である。
- また、特に小学校・中学校については、地域により学校の規模その他の事情が様々であることに留意して、必要に応じて重点化を図ることも示す。

（２）教育内容の改善・充実

①教育内容の見直し

- 主権者教育の視点として、多様な他者と協働しながら、地域の課題を自分事として捉えて主体的にその解決に関わり、社会に積極的に関わっていく力が今後ますます重要になる。児童会・生徒会における役員選挙や総会、委員会活動や、クラブ活動の計画的な運営など、自治的な活動を実践的に学ぶ場面や、学級会・ホームルーム活動における自治的能力を育成する様々な活動について、社会科や公民科との関係も踏まえつつ、その一層の充実を図ることが求められる。
- キャリア教育は、小学校から高等学校まで教育活動全体の中で「基礎的・汎用的能力」を育むものであるが、狭義の「進路指導」との混同により、中学校・高等学校においては、入学試験や就職活動があることから本来の趣旨を矮小化した取組になっていたり、職業に関する理解を目的とした活動だけに目が行きがちになったり、小学校では特別活動において進路に関する内容が存在しないため体系的に行われてこなかったりという実態がある。キャリア教育本来の役割を改めて明確にするためにも、小学校段階から特別活動の中にキャリア教育の視点を入れていくことが重要である。

- 防災を含む安全教育について、特別活動は、学級活動における「安全な生活態度の形成」や学校行事における避難訓練などの活動を行うことだけでなく、各教科における学びと日常生活をつなぐ重要な役割を果たす。また、特別活動で育む自立した生活を営むことや、ともに助け合う力、社会参画の力は、安全に生きていくために求められる「自助」「共助」「公助」につながっていく。安全に関して育成すべき資質・能力の議論を踏まえつつ、こうした取組の充実を図ることが求められる。
- 前回改訂で充実が図られた、食育の観点を踏まえた学校給食と食習慣の形成は引き続き重要であり、各学校の実態に応じて効果的な指導が行われることが望ましい。
- 自然の中で生活をともにする集団宿泊活動については引き続き重要である。育成したい資質・能力を明確にし、青少年教育施設の指導員等とねらいや活動について共有することが重要である。より効果的な活動とするために各教科の年間計画と関連を図って学びを深いものとしたり、「イングリッシュ・キャンプ」「通学合宿」などを行ったりするなどの工夫を行い、より長期間の活動とすることも考えられる。
- 学級・学校の中にいる児童生徒一人一人の個性を尊重し、障害の有無や国籍など様々な違いに関わらず協働していく力を育むこと、地域の高齢者や障害者、外国出身者など様々な人との交流を通じて学ぶことも重要である。
- 情報活用能力の育成という視点からは、学級活動等における問題の発見や確認などを行う際に情報を収集・整理することや、学校図書館の利用なども重要である。また、クラブ活動の中にプログラミングを体験する学習を取り入れることも考えられる。

(3) 学習・指導の改善充実や教育環境の充実等

①主体的・対話的で深い学びの実現

- 特別活動は、児童生徒同士の話し合い活動や、児童生徒の自主的・実践的な活動をその特質としている。「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」というアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を行うことは、特別活動の本質に関わるものであり、これまでも重要と考えられてきたことにつながるものである。

・「深い学び」の視点

特別活動が重視している「実践」を、単に行動の場面と狭く捉えるのではなく、課題の設定から振り返りまでの一連の過程を「実践」と捉え、一連のプロセスの中で、見方・考え方を働かせ育成すべき資質・能力は何なのかということを明確にした上で、意図的・計画的に指導に当たることが求められる。

・「対話的な学び」の視点

特別活動は多様な他者との集団活動を基本とし、これまでも「話し合い」をすべての活動の中で重視してきた。集団活動を行う上で合意形成を図ったり、意思決定をしたりする中で、他者の意見に触れ、自分の考えを広げたり、課題について多面的・多角的に考えたりすることが可能となる。また、異年齢の子供や障害のある児童生徒等多様な他者と対話しながら協働すること、地域の人との交流の中で考えを広め

たり自己肯定感を高めたりすること、自然体験活動を通じて自然と向き合い日頃得られない気付きを得ること、キャリア形成に関する自分自身の意思決定の過程において他の児童生徒や教師等との対話を通じて考えを深めることなども重要である。

・「主体的な学び」の視点

特別活動においては、学級や学校の実際の集団生活の中から課題を見出すことに特質がある。集団生活をよりよくしていくためには何に取り組んだらよいのかということを中心に主体的に見いだしたり、活動を振り返り、よい点や改善点を見付け出すことによって、新たな課題の発見、設定をすることが可能となりそれが次なる動機となったりする。こうした課題の設定や振り返りといった学習のプロセスを意識して、そこで育成すべき資質・能力を明確にすることが求められる。

②教材や教育環境の充実

- 教育課程全体で行うキャリア教育の中で、特別活動が中核的に果たす役割を明確にするため、小学校から高等学校までの特別活動をはじめとしたキャリア教育に関わる活動について、学びのプロセスを記述し振り返ることができるポートフォリオ的な教材（「キャリア・パスポート（仮称）」）を作成することを検討する。特別活動を中心としつつ各教科等と往還しながら、主体的な学びに向かう力を育て、自己のキャリア形成に生かすために活用できるものとなることが期待される。将来的には個人情報保護に留意しつつ電子化して活用することも含め検討する。
- 特別活動に関する指導力は、免許状がないこと等から専門性という点で軽く見られがちであるが、本来、小・中・高等学校のすべての教員に求められる最も基本的な専門性の一つである。教員養成段階で、本まとめ案で示したような特別活動の意義や学校の教育活動全体における役割、指導方法等の本質をしっかりと学ぶようにすることが必要である。また、国や都道府県等による取組状況の共有などを行う研修や、研究団体等による指導方法等の研究及びその普及が強く求められる。
- 特別活動の充実を図るためには、「チームとしての学校」の視点で、教員以外の養護教諭、栄養教諭・学校栄養職員、司書教諭・学校司書などの専門性を生かしながら学校全体で取り組むとともに、学校外の専門家等の協力を得ることが重要である。
- 地域との連携・協働に当たり、活動を通して育てたい資質・能力を地域と共有することが必要である。子供たちが地域の行事への参加、地域の課題解決に向けて取り組むなど大きな役割を果たすことにより、資質・能力を生きて働くものとして成長させたり、学習意欲、自己肯定感を醸成させたりするとともに、地域教育力の向上、地域の活性化、学校との信頼関係構築にもつながる。コミュニティ・スクールの枠組みの積極的な活用、教育委員会と首長部局との連携も重要である。
- また、小・中・高等学校の学校間の連携、家庭との連携や様々な家庭状況への配慮、小規模校における教育効果を高める工夫などの取組も重要である。

	個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校	○ 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義の理解。 ○ 様々な集団活動を実践する上で必要となることの理解や技能。	○ 所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見いだし、その解決のため話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができる。	○ 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活や社会をよりよく形成しようとしたり、人間としての在り方生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度。
中学校	○ 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義の理解。 ○ 様々な集団活動を実践する上で必要となることの理解や技能。	○ 所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見いだし、その解決のため話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができる。	○ 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活や社会をよりよく形成しようとしたり、人間としての生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度。
小学校	○ 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義の理解。 ○ 様々な集団活動を実践する上で必要となることの理解や技能。	○ 所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見いだし、その解決のため話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができる。	○ 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活をよりよく形成しようとしたり、自己の生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度。

〇〇《特別活動における「見方・考え方」》

各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方を総合的に活用して、集団や社会の形成者という視点から問題を見出し、
よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現の視点からその問題を解決するために考えること

特別活動における自主的・実践的な活動や生徒指導の機能、ガイダンスの機能が学級生活の基盤、学校生活の基盤をつくる

〇学級経営の充実を図る特別活動の役割や、学びに向かう学習集団の形成への寄与により、各教科等における「主体的な学び」、「協働的な学び」がより充実する。
〇特別活動において、各教科等における見方や考え方を効果的に活用することによって、より実践的な文脈で見方や考え方を生かすことができるようになるなど、教科等の見方や考え方が成長し「深い学び」が実現する。

各教科等

↑ 生活範囲や人間関係の多様性の広がり

集団活動を通じた学級・学校文化の創造

学校の教育目標

【高等学校】 ◎ 集団や社会の形成者として、特別活動の特質に応じて育まれる見方・考え方を働かせて、様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら葛藤や問題解決を繰り返すことを通して、次のとおり資質・能力を育成する。 ○ 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、そうした実践をすることで必要となることを理解し技能を身に付ける。 ○ 所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見いだし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができるようにする。 ○ 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団が生活や社会をよりよく形成しようとしたり、人間としての在り方生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度を育てる。	【中学校】 ◎ 集団や社会の形成者として、特別活動の特質に応じて育まれる見方・考え方を働かせて、様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら直面する課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成する。 ○ 多様な他者と協働するの様々な集団活動の意義や、そうした実践をすることで必要となることを理解し技能を身に付ける。 ○ 所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見いだし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができるようにする。 ○ 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活や社会をよりよく形成しようとしたり、人間としての生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度を育てる。	【小学校】 ◎ 集団や社会の形成者として、特別活動の特質に応じて育まれる見方・考え方を働かせて、様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を改善することを通して、次のとおり資質・能力を育成する。 ○ 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、そうした実践をすることで必要となることを理解し技能を身に付ける。 ○ 所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見いだし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができるようにする。 ○ 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活をよりよく形成しようとしたり、自己の生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度を育てる。
---	--	---

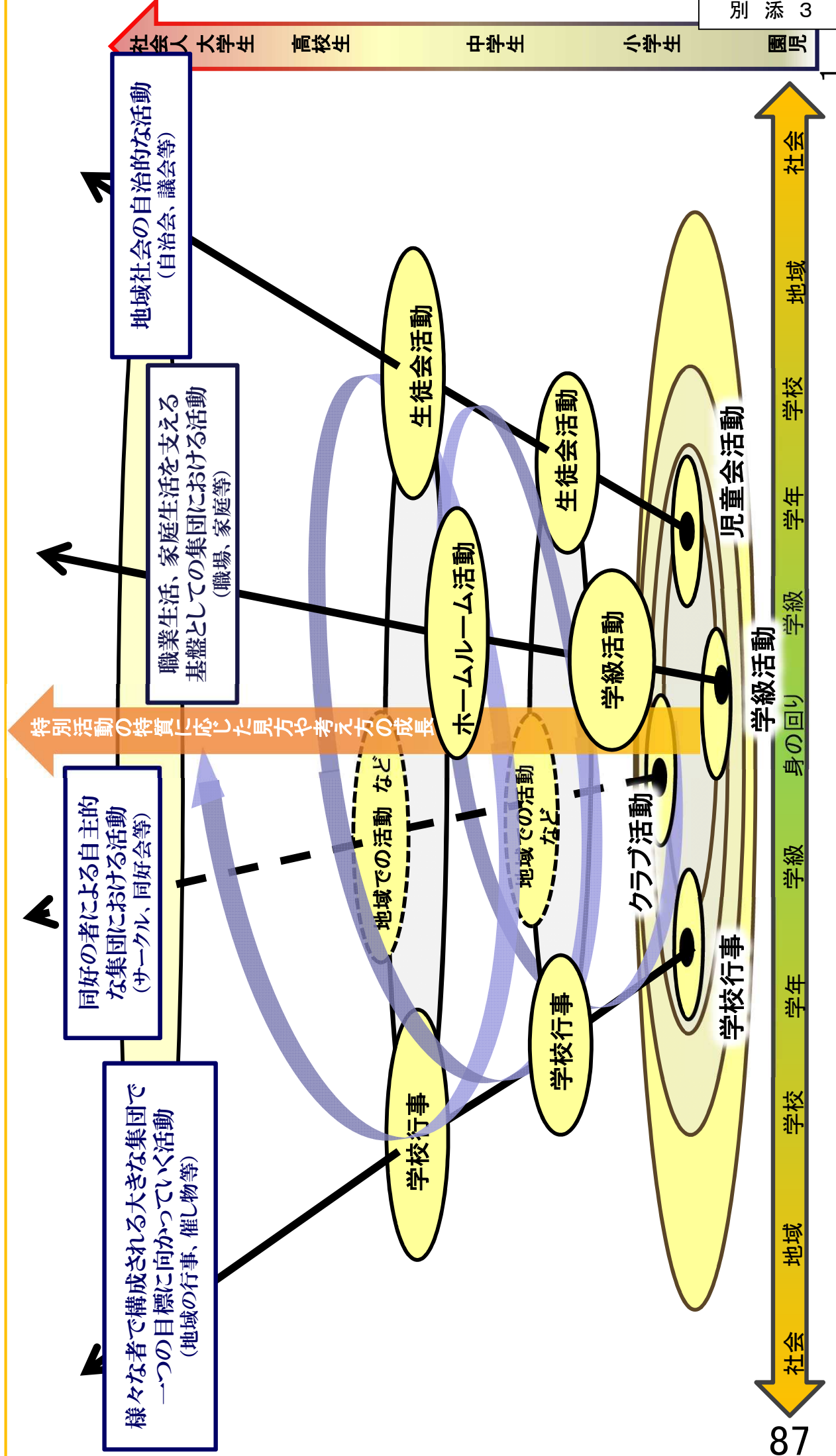
【幼児教育】	【健康な心と体】	【自立的】	【協同性】	【道徳性・規範意識の芽生え】	【社会生活との関わり】	【思考力の芽生え】	【自然との関わり・生命尊重】
・幼稚園生活の中で満足感や充実感を持つて自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせながら取り組み、異通しを持って自ら健康で安全な生活を作り出しているようになる。	・自分の力で行うために思いを巡らし、自分ではないけれどいいことを自覚して行い、諦めずやり遂げることで満足感や達成感を味わいながら、自信を持つて行動するようになる。	・友達との関わりを通じて、互いの思いや考えなどを共有し、異通しに向けて、工夫したり、協力したりする充実感を味わいながらやり遂げるようになる。	・友達との関わりを通じて、互いの思いや考えなどを共有し、異通しに向けて、工夫したり、協力したりする充実感を味わいながらやり遂げるようになる。	・よいことや悪いことが分かれ、相手の立場に立って行動するようになり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、決まりの大切さが分かるようになる。	・家族を大切にしようとする気持ちを持ちつつ、いろいろな人と関わりながら、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に一層の親しみを持つようになる。 ・情報を伝え合ったり、情報に基づき思い合わせたりするようになるとともに、公共の施設を大切にしたり、社会全体とのつながりの意識等が芽生えるようになる。	・身近な事象に好奇心や探究心を持って思いを巡らしながら積極的に関わり、物の性質や仕組み等に気付いたり、予想したり、工夫したりなどして多様な関わりを楽しむようになるなどして、友達と考える思い合わせなどとして、新しい考えを生み出す喜びを感じながら、よりよいものにするようになる。	・身近な事象に触れて感動する体験を通じて思いを巡らしながら積極的に関わり、物の性質や仕組み等に気付いたり、予想したり、工夫したりなどして多様な関わりを楽しむようになるなどして、友達と考える思い合わせなどとして、新しい考えを生み出す喜びを感じながら、よりよいものにするようになる。

特別活動における各活動の整理と「見方・考え方」(イメージ案)

平成28年6月22日
特別活動WG
資料3

《特別活動における「見方・考え方」》

各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方を総合的に活用して、集団や社会の形成者という視点から問題を見出し、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現の視点からその問題を解決するために考えること



特別活動において育成すべき資質・能力の視点について(案)

平成28年6月22日
特別活動WG
資料2

育成すべき資質・能力の視点

人間関係形成

社会参画

自己実現

社会参画

- ・よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画する力及び諸問題を解決しようとする力。
- ・集団の中において、個人が集団へ寄与する中で育まれるものと考えられる。

自己実現

- ・集団の中で、自己の生活の課題を発見しよりよく改善する力や自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力。自己の在り方生き方を考え設計する力。
- ・集団の中において、個々人が共通して当面する現在及び将来に関わる問題を考察する中で育まれるものと考えられる。

集団・社会

自己

他者

人間関係形成

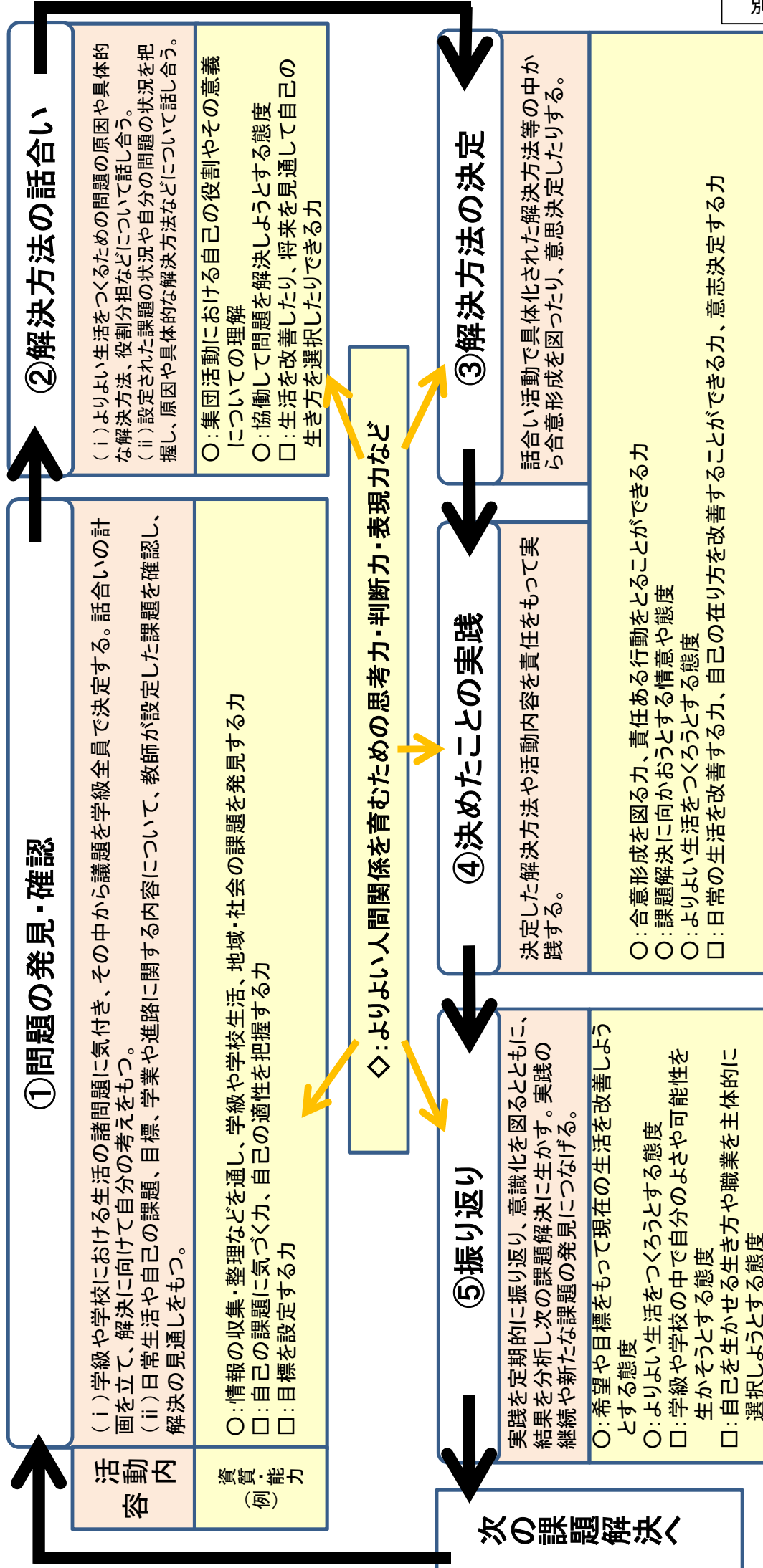
- ・集団の中で、よりよい人間関係を自主的、実践的に形成する力。
- ・集団の中において、個人対個人という関係性の中で育まれるものと考えられる。

※発達段階に応じて、集団や社会の範囲が拡大し、他者が多様化し、扱う問題が高度化する。また、様々な場面において、強い意志や忍耐力、想定外のことに対応する力などが求められることとなる。

特別活動における各活動の意義や役割(学級(ホームルーム)活動)(案)

平成28年6月22日
特別活動WG
資料6 会議後修正

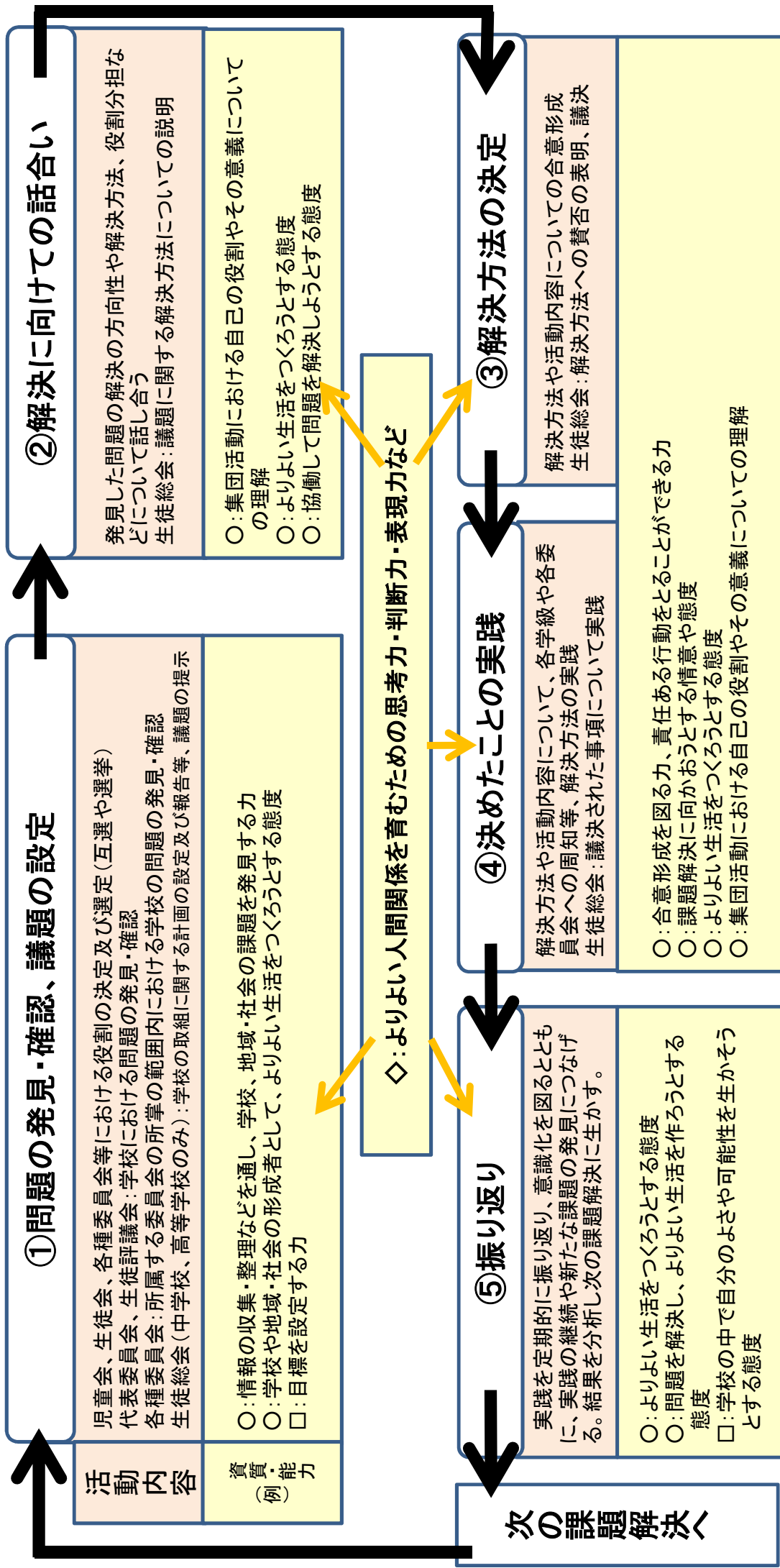
学級(ホームルーム)活動



※特別活動で育成すべき資質・能力の3つの視点…◇:人間関係形成、○:社会参画、□:自己実現
※本プロセスは例であり、活動の順序が入れ替わったり、一体化したり、重点的に行われたり、一連の過程がより大きな過程の一部になったりする。
※実践の場合は、休み時間や給食の時間、放課後など、必ずしも特別活動の時間とは限らない。

特別活動における各活動の意義や役割(児童(生徒)会活動)(案)

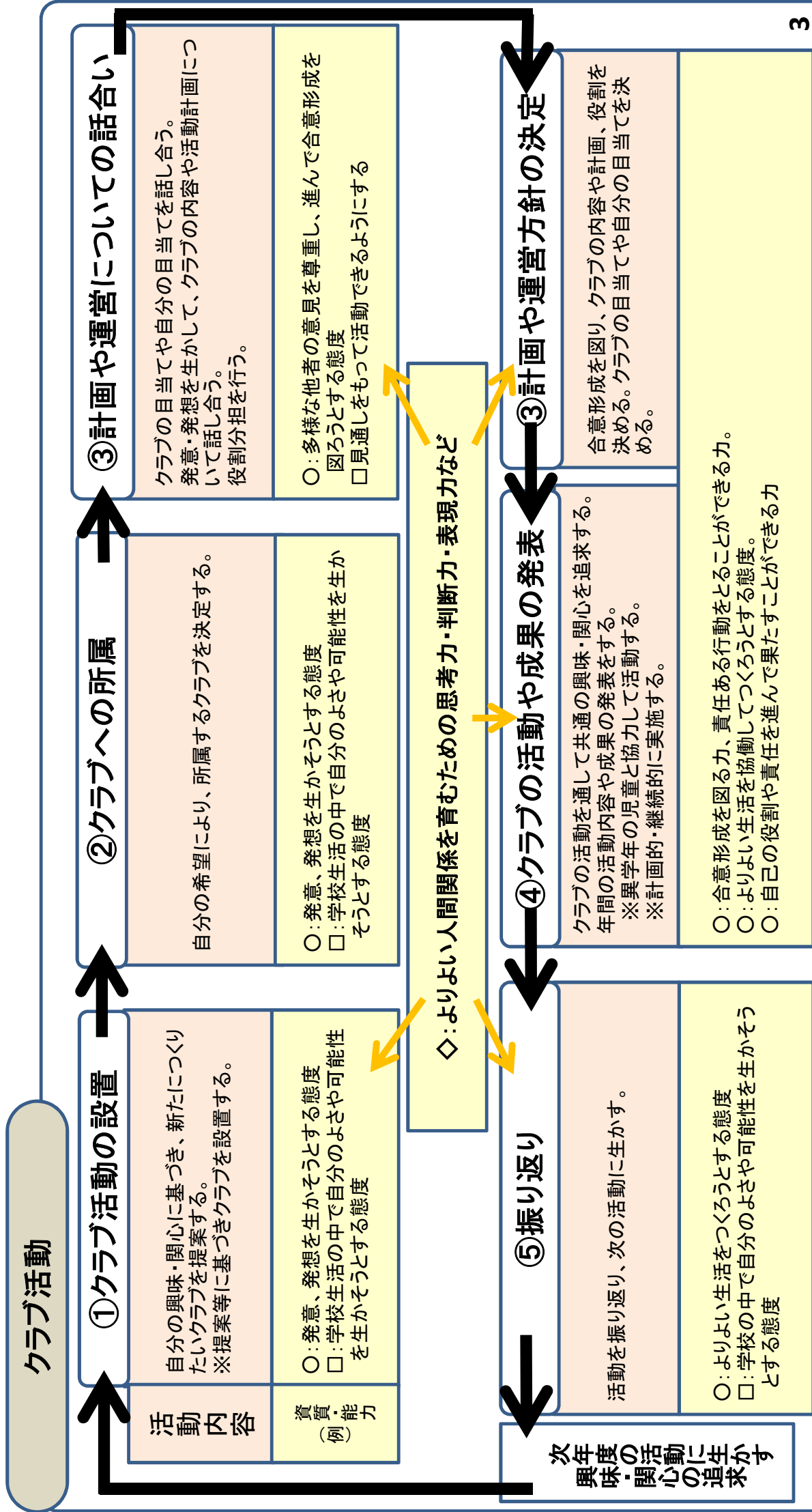
児童会(生徒会)活動



※特別活動で育成すべき資質・能力の3つの視点・・・◇: 人間関係形成、○: 社会参画、□: 自己実現

※本プロセスは例であり、活動の順序が入れ替わったり、一体化したり、重点的に行われたり、一連の過程がより大きな過程の一部になったりする。

特別活動における各活動の意義や役割(クラブ活動)(案)

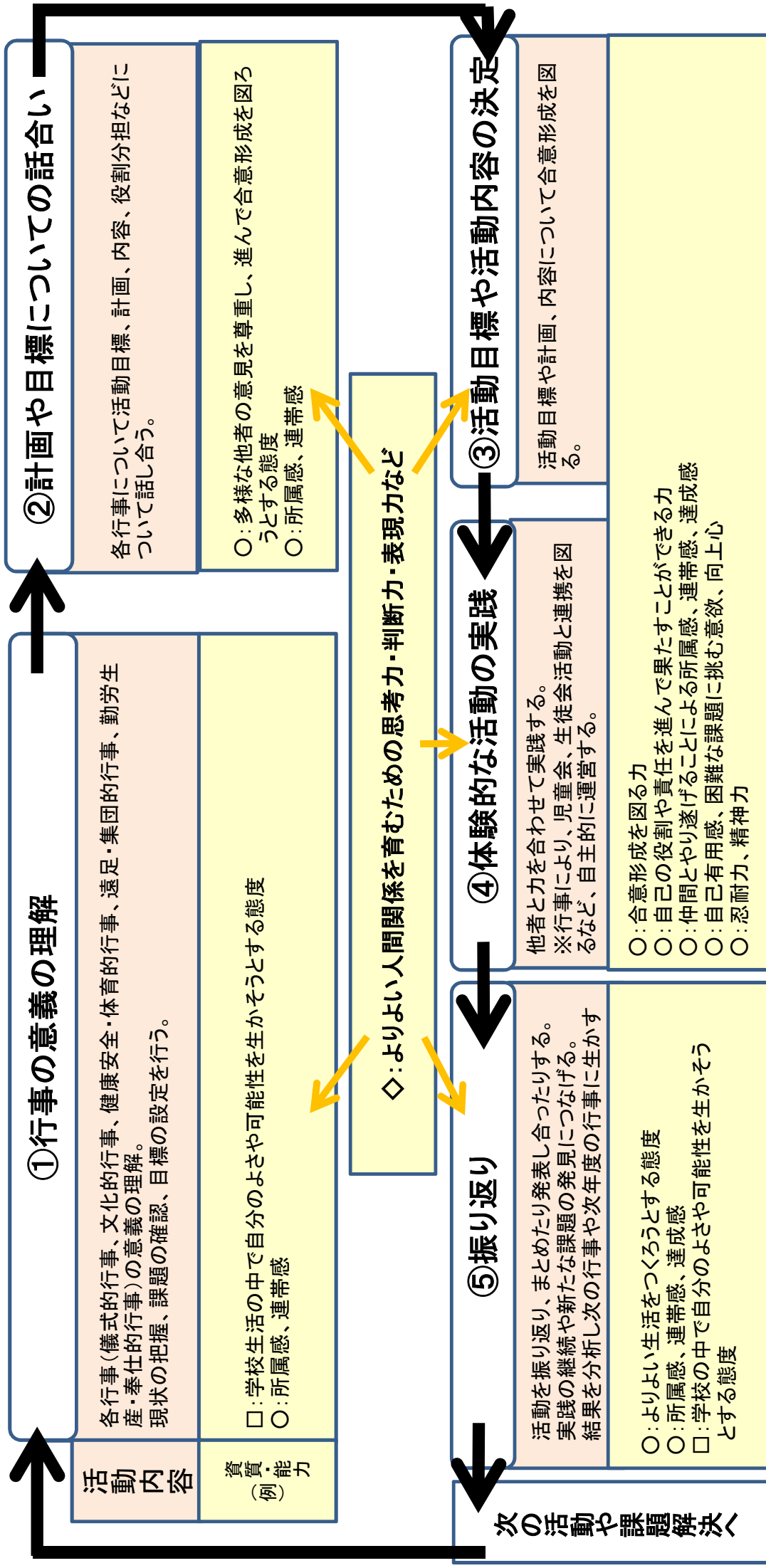


※特別活動で育成すべき資質・能力の3つの視点…◇: 人間関係形成、○: 社会参画、□: 自己実現

※本プロセスは例であり、活動の順序が入れ替わったり、一体化したり、重点的に行われたり、一連の過程がより大きな過程の一部になったりする。

特別活動における各活動の意義や役割（学校行事）（案）

学校行事



※特別活動で育成すべき資質・能力の3つの視点…◇: 人間関係形成、○: 社会参画、□: 自己実現

※本プロセスは例であり、活動の順序が入れ替わったり、一体化したり、重点的に行われたり、一連の過程がより大きな過程の一部になったりする。

小学校特別活動の内容の構成（学級活動）について（イメージ案）

平成28年6月22日
特別活動資料8

（学級活動の改善の方向性）

特別活動で育成すべき資質・能力の3つの視点（人間関係形成、社会参画、自己実現）や、総則の構成や社会の要請などを踏まえて整理すべき視点など、教育課程全体における特別活動の役割も踏まえて、各活動の内容構成の構造を整理し、趣旨を明確化する

3つの視点

特別活動の
構成について
検討する

現行の小学校学習指導要領（特別活動）

第2 各活動・学校行事の目標及び内容

〔学級活動〕

（1）学級や学校の生活づくり

- ◇○□ ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
- ◇○□ イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理
- ◇○□ ウ 学校における多様な集団の生活の向上

（2）日常生活や学習への適応及び健康安全

- ◇○□ ア 希望や目標をもって生きる態度の形成
- ◇○□ イ 基本的な生活習慣の形成
- ◇○□ ウ 望ましい人間関係の形成
- ◇○□ エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解
- ◇○□ オ 学校図書館の利用
- ◇○□ カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
- ◇○□ キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

各項目と3つの視点との関係は、主として指導にあたって特に意識すべきと考えられる視点を強調して示しているが、それ以外の視点とも相互に関わりあっている。

改善のイメージ案

- （1）学級や学校における集団生活の創造、参画（仮）
⇒主として自発的・自治的な集団生活の形成や運営に関わる内容であり、集団としての議題の選定や話し合い、合意形成とそれに基づく実践を大事にする活動

例) 学級や学校における生活上の諸問題の解決、学級内の組織づくりや役割分担、学校における多様な集団生活の向上など集団生活の形成や運営、向上に関する内容
※日々の学級経営との関連を図る

- （2）一人一人の適応や成長及び健康安全な生活の実現（仮）
⇒主に個人が現在直面する生活における適応や成長、自律等に関わる内容であり、一人一人の理解や自覚等を大事にする活動

例) 希望や目標の設定、基本的な生活習慣や健康で安全な生活態度の形成、食育の視点を踏まえた学校給食や望ましい食習慣の形成、当番活動や働くことの意義の理解、学校図書館の利用など、一人一人の児童の学校生活や学習への適応及び健康安全に関する内容
※関係教科、個別の生活指導や生徒指導との関連を図る

- （3）一人一人のキャリア形成と実現（仮）
⇒現在の（2）のうち、中学校以降における、一人一人のキャリア形成と実現に関わる内容（3）につながっている部分等

総則の構成や社会の要請などを踏まえて整理すべき視点（例）

社会参画・自治の視点

学級経営と関連する視点

多様性を尊重する社会の視点

生活指導、生徒指導と関連する視点

学校段階間の接続の視点

多様性を尊重する社会の視点

キャリア形成の視点

主体的な学びの視点

心身の健康、安全・防災の視点

食育の視点

中学校特別活動の内容の構成（学級活動）について（イメージ案）

（学級活動の改善の方向性）

特別活動で育成すべき資質・能力の3つの視点（人間関係形成、社会参画、自己実現）や、総則の構成や社会の要請などを踏まえて整理すべき視点など、教育課程全体における特別活動の役割も踏まえて、各活動の内容構成の構造を整理し、趣旨を明確化する

3つの視点



現行の中学校学習指導要領（特別活動）

第2 各活動・学校行事の目標及び内容 〔学級活動〕

（1）学級や学校の生活づくり

- ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
- イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理
- ウ 学校における多様な集団の生活の向上



（2）適応と成長及び健康安全

- ア 思春期の不安や悩みとその解決
- イ 自己及び他者の個性の理解と尊重
- ウ 社会の一員としての自覚と責任
- エ 男女相互の理解と協力
- オ 望ましい人間関係の確立
- カ ボランティア活動の意義の理解と参加
- キ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成
- ク 性的な発達への対応
- ケ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成



（3）学業と進路

- ア 学ぶことと働くことの意義の理解
- イ 自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用
- ウ 進路適性の吟味と進路情報の活用
- エ 望ましい勤労観・職業観の形成
- オ 主体的な進路の選択と将来設計



3つの視点との関係は、主として関わる視点を強調して示しているが、それ以外の視点とも相互に関わりあっている。ここでは、指導に当たって特に意識すべきと考えられる視点を記している。

総則の構成や社会の要請などを
踏まえて整理すべき視点（例）

社会参画・自治の視点

学級経営と関連する視点

生活指導、生徒指導と関連する視点

学校段階間の接続の視点

多様性を尊重する社会の視点

社会参画の視点

心身の健康、安全・防災等の視点

食育の視点

主体的な学びの視点

キャリア形成の視点

個に応じた学習の支援や進路
指導と関連する視点

改善のイメージ案

（1）学級や学校における集団生活の創造、参画（仮）

⇒主として自発的・自治的な集団生活の形成や運営に関わる内容であり、集団としての議題の選定や話し合い、合意形成とそれに基づく実践を大事にする活動

例) 学校における多様な集団生活の向上、学級や学校における生活上の諸問題の解決、学級内の組織づくりと役割分担など、校内におけるよりよい集団生活の形成や運営、向上に関する内容

※日々の学級経営との関連を図る

（2）一人一人の適応や成長及び健康安全な生活の実現（仮）

⇒主 to 個人が現在直面する生活における適応や成長、自律等に関わる内容であり、一人一人の理解や自覚、意思決定（自己決定）とそれに基づく実践等を大事にする活動

例) 男女相互の理解と協力などの多様性を尊重した望ましい人間関係の形成や、思春期の不安や悩みの解決や性的な発達への対応、食育の視点や学校給食、食習慣の形成など、生徒個人の適応や成長及び健康安全に関する内容

※関係教科、個別の生活指導や生徒指導との関連を図る

（3）一人一人のキャリア形成と実現（仮）

⇒主 to 将来に向けた自己の実現に関わる内容であり、一人一人の主体的な意思決定を大事にする活動

例) 学校図書館の利用など、学びと社会生活・職業生活の接続と振り返り（ポートフォリオ）、ボランティア活動の充実や勤労観・職業観の育成を含むなど、自己のキャリア形成と実現に関する内容

＊高等学校においては、社会的移行への対応を含む

※個に応じた学習の支援や進路指導との関連を図る

高等学校特別活動の内容の構成（ホームルーム活動）について

（ホームルーム活動の改善の方向性）

特別活動で育成すべき資質・能力の3つの視点（人間関係形成、社会参画、自己実現）や、総則の構成や社会の要請などを踏まえて整理すべき視点など、教育課程全体における特別活動の役割も踏まえて、各活動の内容構成の構造を整理し、趣旨を明確化する

3つの視点



現行の高等学校学習指導要領（特別活動）

第2 各活動・学校行事の目標及び内容 〔学級活動〕

（1）ホームルームや学校の生活づくり

- ア ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決
- イ ホームルーム内の組織づくりと自主的な活動
- ウ 学校における多様な集団の生活の向上

（2）適応と成長及び健康安全

- ア 青年期の悩みや課題とその解決
- イ 自己及び他者の個性の理解と尊重
- ウ 社会生活における役割の自覚と自己責任
- エ 男女相互の理解と協力
- オ コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立
- カ ボランティア活動の意義の理解と参画
- キ 国際理解と国際交流
- ク 心身の健康と健全な生活態度や規律ある習慣の確立
- ケ 生命の尊重と安全な生活態度や規律ある習慣の確立

（3）学業と進路

- ア 学ぶことと働くことの意義の理解
- イ 主体的な学習態度の形成と学校図書館の利用
- ウ 教科・科目の適切な選択
- エ 進路適性の理解と進路情報の活用
- オ 望ましい勤労観・職業観の確立
- カ 主体的な進路の選択決定と将来設計

各項目と3つの視点との関係は、主として指導にあたって特に意識すべきと考えられる視点を強調して示しているが、それ以外の視点とも相互に関わりあっている。

改善のイメージ案

（1）ホームルームや学校における集団生活の創造、参画（仮）

⇒ **主として自発的・自治的な集団生活の形成や運営に関わる内容であり、集団としての議題の選定や話し合い、合意形成とそれに基づく実践を大事にする活動**

例) 学校における多様な集団生活の向上、ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決、ホームルーム内の組織づくりと役割分担など、校内におけるよりよい集団生活の形成や運営、向上に関する内容

※日々のホームルーム経営との関連を図る

（2）一人一人の適応や成長及び健康安全な生活の実現（仮）

⇒ **主に個人が現在直面する生活における適応や成長、自律等に関わる内容であり、一人一人の理解や自覚、意思決定（自己決定）とそれに基づく実践等を大事にする活動**

例) 男女相互の理解と協力やコミュニケーション能力の育成、国際理解・国際交流などの多様性を尊重した望ましい人間関係の形成や社会参画、青年期の不安や悩みとその解決、心身の健康と健全な生活態度、生命の尊重と安全な生活態度、規律ある習慣の確立など、生徒個人の適応や成長及び健康安全に関する内容

※関係教科、個別の生活指導や生徒指導との関連を図る

（3）一人一人のキャリア形成と実現（仮）

⇒ **主に将来に向けた自己の実現に関わる内容であり、一人一人の主体的な意思決定を大事にする活動**

例) 学校図書館の利用など、学びと社会生活・職業生活の接続と振り返り（ポートフォリオ）、ボランティア活動の充実や勤労観・職業感の育成、社会的移行への対応など、自己のキャリア形成と実現に関する内容

※個に応じた学習の支援や進路指導との関連を図る